

# 2010 年度事業報告（案）

## 1. 事業報告全般：

会員が所属する機関において組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり、協会を取り巻く状況も厳しさが増している。このような状況下で、魅力ある協会とすることを大きな検討課題として、年間の諸事業を通して地道な事業を推進しているところである。

### ・会員増強対策への取り組み

会員拡大策の一環として、維持会員向け無料セミナーの開催、セミナー参加費の割引など各会員への特典制度を設け実施した。

・公益法人制度改革法案が公布されたことに伴い、当協会の一般社団法人への移行に関する準備活動を開始した。

協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業（講習会、シンポジウム、情報検索能力試験を含む）をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。主な実績は次の通りである。

・会誌刊行については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行が達成された。また、委員会レポートや情報検索能力試験実施など、協会活動の紹介を行った。

・出版事業については、「情報検索の知識と技術」の新訂版の発行および既刊の「情報検索の基礎知識」の販売を継続し、情報検索能力試験事業に大きく寄与できた。

・研修事業については、研修委員会および西日本委員会の活発な企画・推進により、会員の注目するセミナー、見学会を実施できた。また、企画力強化のために両委員会の委員構成を充実させ、相互の情報交換を行った。

・パテントドキュメンテーション委員会が発足し、会誌編集委員会および研修委員会との連携のもと、セミナーの実施および特集記事の掲載などの活動を開始した。

・情報検索能力試験については、今年度も通常の公開試験会場と併せて8ヶ所の個別試験会場で実施した。本試験に関する普及活動に努めている。

・第7回情報プロフェッショナルシンポジウムは、多くの参加者を仰ぐことができた。特に維持会員は今回も招待とし好評であった。また、今回もプロダクト・レビューを開催し好評を得た。

・研究会としての OUG（4分科会）、SIG（5部会）については、活発な分科会、部会が開催された。情報プロフェッショナルシンポジウムでの研究成果の発表やポスター展示などを行った。

・受託事業として、日本図書館情報学会の「図書館情報学検定試験 2010 年度準備試験」の運営に係る業務を受託した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場、大阪会場および筑波会場で実施した。

## 2. 2010 年度役員および担当（〇は 2010 年度選出）

理事（東日本地区）

- 臼井裕一 PD 委員会（正）、OUG、事業推進委員
- 小山内正明 会誌編集委員会（正）
- 小野寺夏生 会長、運営委員会委員長、事業推進委員
- 川村 剛 副会長、事業推進委員会（正）、運営委員
- 佐藤京子 SIG
- 鈴木尚志 事業推進委員会（副）
- 鈴木博道 複写権問題対策委員会、運営委員
- 真銅解子 副会長、運営委員、事業推進委員、表彰者選考委員会委員長
- 田村紀光 専務理事事務局長、運営委員、事業推進委員
- 長澤 洋 PD 委員会（副）
- 原田智子 試験実施委員会（正）、運営委員、標準化委員会
- 増田 豊 出版委員会（正）
- 望月聖子 試験実施委員会（副）

- 柳 一美 会誌編集委員会 (副)  
 山崎久道 著作権問題委員会  
 吉井隆明 研修委員会、出版委員会 (副)、運営委員  
 理事 (西日本地区)  
 河塚幸子 西日本委員会  
 ○中江貴彦 西日本委員会  
 三村智子 西日本委員会  
 ○増田知子 西日本委員会  
 監事  
 ○小河邦雄 藤井信栄

評議員 (東日本地区)

- 清水美都子 莊司雅之 立花 肇 ○棚橋佳子 土谷 久  
 ○時実象一 ○徳野 肇 ○西内 史 林 和弘 平井邦造  
 ○松谷貴己 山本外茂男

評議員 (西日本地区)

- 麻生剛之 稲葉洋子 岡 紀子 ○柴田昌樹 ○高橋和子  
 田窪直規 田中邦英 ○山田瑞穂

3. 会員異動

| 種別   | 2009 年度末 | 入会  | 退会  | 増減  | 2010 年度末 |
|------|----------|-----|-----|-----|----------|
| 維持会員 | 58       | 4   | 3   | 1   | 59       |
| 特別会員 | 122      | 1   | 9   | -8  | 114      |
| 普通会員 | 1,238    | 109 | 143 | -34 | 1,204    |
| 学生会員 | 30       | 10  | 12  | -2  | 28       |
| 合計   | 1,448    | 124 | 167 | -43 | 1,405    |

4. 会議開催状況

(1) 通常総会 -----1 回

第 53 回通常総会および協会賞表彰式 2010 年 5 月 21 日 (金)

議題:

- ① 2009 年度事業報告および決算報告  
 ② 2010 年度事業計画案および予算案  
 ③ 2010 年度～2011 年度役員選挙  
 ④ 第 35 回情報科学技術協会賞表彰  
 ・情報業務功労賞 長縄友子氏  
 ・教育・訓練功労賞 松谷貴己氏  
 ・研究発表賞 林 和弘氏  
 ・協会事業功労賞 平井邦造氏、山崎久道氏  
 ⑤ 名誉会員推挙 立花 肇氏

(2) 理事会 ----- 6 回

(3) 評議員会 ----- 1 回 (2011 年 2 月 25 日 (金))

(4) 委員会

- 運営委員会 ----- 6 回 シンポジウム実行委員会 --- 6 回  
 表彰者選考委員会 ---- 1 回 認定試験実施委員会 ----- 8 回

|         |            |            |                     |
|---------|------------|------------|---------------------|
| 事業推進委員会 | ----- 5回   | 著作権問題委員会   | ----- メーリングリストにより実施 |
| 会誌編集委員会 | -----14回   | 複写権問題対策委員会 | -----1回             |
| 研修委員会   | - ----- 3回 |            |                     |
| 西日本委員会  | -----6回    |            |                     |

## 5. 刊行事業

### 5.1 会誌刊行事業

2010年度も安定した発刊（当月1日）を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、情報担当者の世界で話題になっているトピックを幅広く取り上げることができた。特集内容は若干図書館分野に偏りがちな傾向はあるが、編集委員会内でもこの点は留意し、他誌では扱い難いトピックを取り上げるなど工夫を凝らしている。今年度は協会の各事業委員会などとの連携による特集を企画した。従来から定期的に掲載している情報検索能力試験報告、協会関連の研究会やセミナーの報告などとともに、協会活動の周知を図る上で有効に機能したものと考えている。会誌発行費用の節減のため、従来は1特集あたり6記事だった特集記事の標準本数を、今年度から5記事を標準に改めた。その他の費用節減策として、間紙の変更や綴じ穴の廃止などの措置を行っている。

投稿記事は2010年4月から2011年3月の間に3本掲載した。投稿記事は、特集では実現し得ないトピックの紹介や会員間の情報共有の場として重要だが、少数にとどまったことは残念である。

本誌は国立情報学研究所が運営する論文情報ナビゲータ(CiNii)を通じて本文を公開しているが、これまで会誌発行の翌月から5ヶ月の間は、個人支払いによる有料での公開（協会員は無料）としていた。2010年4月よりこの公開条件を改め、会誌発行の翌月から5ヶ月までの4ヶ月分については「CiNii 機関定額アクセス」により公開することとした。

会誌編集委員会では、西日本委員会の協力のもと「西日本協力員」という制度を設け、2名をこれに任命している。協力員は電子メールベースで委員会に参加するとともに、年2回の企画会議に出席していただいている。また企画会議には、研修委員会、パテントドキュメンテーション委員会からのご出席も頂いている。各事業委員会との情報共有・意見交換を進めることで、より多角的な視点による特集が実現できるものと考えている。

#### 【特集】

#### 2010年

- 4月号 オープンアクセス
- 5月号 OUG / SIG の活動紹介
- 6月号 データマイニングの活用
- 7月号 PubMed 使い倒し
- 8月号 特許情報の分析・活用
- 9月号 書誌コントロール再考
- 10月号 図書館員のメンタルヘルス
- 11月号 デジタル映像アーカイブ
- 12月号 メタデータの現在

#### 2011年

- 1月号 情報の信頼性
- 2月号 ソーシャルサービス活用指南
- 3月号 第7回情報プロフェッショナルシンポジウム

#### 【コラム】Infosta Forum（継続連載中）

### 5.2 一般刊行事業

既刊出版物の増刷での販売を行った。情報検索能力試験対策のテキストとして、『情報検索の知

識と技術』新訂版を発行した。パテントドキュメンテーション委員会企画で、特許調査の実務者向け書籍の刊行を検討し、2011年度の刊行を予定。「INFOSTAブックレット」シリーズについては、既刊書の発売は継続するものの、新規書籍については、発行に至らなかった。

## 6. 普及研修事業

### 6.1 研修会・セミナー

今年も引き続き大阪、東京の両地区で情報検索能力試験向けセミナー（情報検索応用能力試験2級および情報検索基礎能力試験）を行い、受験対策および受験者獲得に貢献した。一般セミナーとしては、Webサイト研究会との共同企画で、Webサーバを用いたデータベース作成のセミナーを開催し、満員により追加開催を行った。定番化した新年会セミナーではビジネスに役立つパーソナルブランドを磨く講演を実施した。見学会として、帝国データバンク史料館の見学を実施した。引き続き西日本委員会と研修委員会で積極的に連携を行い、著作権セミナーやXMLセミナーの検討を行った。パテントドキュメンテーション委員会との連携により、各国特許法の6回シリーズのセミナーを開催した。さらに、維持会員向けセミナーの開催に協力し、合理的思考法(KT法)のセミナーを企画した。会誌2011年4月号の特集企画「インフォプロいちねんせい」に協力し、研修委員会の紹介記事とコラムを掲載する。なお、東北関東大震災の影響により、東京、大阪にて開催を予定していた著作権セミナーを中止した。

#### 研修一覧

| 名 称                               | 期日         | 会場 | 参加者数  |
|-----------------------------------|------------|----|-------|
| 特許調査に必要な知識シリーズ (6回)               | 5~12月      | 東京 | 延べ338 |
| 情報検索基礎能力試験対策セミナー                  | 8月28日      | 大阪 | 28    |
| 情報検索基礎能力試験対策セミナー                  | 9月4日       | 東京 | 38    |
| サーチャータラクター講座 21                   | 9月11-12日   | 大阪 | 36    |
| サーチャータラクター講座 21                   | 9月25-26日   | 東京 | 44    |
| データベース作成 基礎セミナー                   | 9月16日      | 東京 | 37    |
| データベース作成 基礎セミナー<br>(上記追加開催)       | 10月7日      | 東京 | 45    |
| 見学会 帝国データバンク史料館                   | 11月2日      | 東京 | 14    |
| 見学会 鳥取県立図書館                       | 12月3日      | 鳥取 | 7     |
| 新春セミナー (パーソナルブランドを磨く)             | 2011年1月21日 | 東京 | 35    |
| 維持会員セミナー: ユーザーのニーズ、把握していますか (KT法) | 2月10日      | 東京 | 12    |
| 著作権処理実践セミナー<br>(3月震災のため中止)        | 3月25日      | 大阪 |       |
| 著作権処理実践セミナー<br>(3月震災のため中止)        | 3月28日      | 東京 |       |

### 6.2 シンポジウム

INFOPRO2010は、(独)科学技術振興機構との共催により、2010年11月18日~11月19日の2日間、日本科学未来館で開催した。特別講演、トーク&トークおよび一般発表など、充実した内容となった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、プロダクト・レビューを開催した。各社のプロダクト・レビューおよび展示コーナーでの商品展示を開催し、好評であった。

- ・特別講演は、村上憲朗氏(グーグル㈱ 名誉会長)による『グーグルの切り開く情報の世界-プロフェッショナルの仕事とは-』の演題で行なわれた。
- ・トーク&トークは、『激論! これからの知財インフォプロ』を開催した。3名の話提供、参加者

とのトーク&トークとして盛況であった。その後、「トーク&トーク ランチセッション」を開催、3名の話題提供者と一般参加者で会食をしながらの交流を行った。

- ・一般発表 : 25件
- ・プロダクト・レビュー  
8社によるプレゼンテーションと展示コーナーでの商品説明など
- ・INFOSTA 研究会 (OUG および SIG) のポスター紹介を行った。
- ・今回初めての企画として、特許調査相談コーナーを実施した。OUG のメンバー4名が相談員となり、データベースやシステム利用などの相談を受けた。

### 6.3 情報検索能力試験

2010年11月28日に、公開試験会場7箇所と個別試験会場8箇所で開催した。受験申込者数は、1,044名(前年1,142名)であった。個別試験会場は公開試験会場へ出かけることなく、地域の大学などで開催できるなど、好評であった。基礎能力試験に関しては、前年度から始めたマークシートを本年度も採用し、採点作業などの効率化を図った。一級の二次試験は、2011年2月20日に実施した。

受験者への対応としては、テキストに基づく講習会を東京地区および大阪地区で開催した。試験拡大につき、司書課程、情報課程の大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館への広報活動を行った。さらに、ポスター、パンフレットの作成と配布、JDream ニュースへの試験案内なども実施した。

合格発表後は、「合格を祝う会」を東京地区(3月11日)と大阪地区(3月12日)での開催を予定していたが、東京地区については東北関東大震災の影響で中止となった。

また、認定試験実施委員会では、試験実施と並行して試験制度の見直しについても検討を行い、関連する他の試験の調査や文部科学省で進められている「検定試験の評価ガイドライン」の説明会に参加し、新試験制度案についての取りまとめを行った。

2010年度「情報検索応用能力試験」実施結果(カッコ内は2009年度実績)

|    | 受験者数         | 合格者数       | 合格率          |
|----|--------------|------------|--------------|
| 基礎 | 736名(826名)   | 604名(682名) | 82.1%(82.6%) |
| 2級 | 205名(204名)   | 85名(91名)   | 41.5%(44.6%) |
| 1級 | 21名(28名)     | 6名(7名)     | 28.6%(25%)   |
| 合計 | 962名(1,058名) | 695名(780名) |              |

試験地:

- ・1級一次・2級: 東京1、東京2、名古屋、大阪、福岡、つくば、上田
- ・1級一次: 東京
- ・基礎(公開会場): 東京1、東京2、名古屋、大阪、福岡、つくば、上田
- ・基礎(個別会場): 九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、広島市立図書館、昭和女子大

## 7. 調査研究事業

### 7.1 受託調査・事業

- ・受託調査はなかった。
- ・受託事業として、日本図書館情報学会の「図書館情報学検定試験2010年度準備試験」につき、試験運営に係る業務を受託した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場と大阪会場、筑波会場で実施した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場、大阪会場、筑波会場で、2010年11月28日(日)に実施した。

## 7.2 標準化活動

### (1) 標準化委員会

今年度は特に開催しなかった。

### (2) 科学技術情報流通技術基準 (SIST) 委員会に委員を派遣した。

## 7.3 著作権活動

### (1) 著作権問題委員会

① 著作権についての普及活動の一環として、会員からの要望の強い「著作権処理実践セミナー」(3月28日東京)の開催につき協力した。

② 本年度は、協会からの著作権問題についての諮問事項はなかった。

③ INFOSTAにおける著作権関連委員会の再編成について検討した。

### (2) 複写権問題対策委員会

著作権法改正課題などについて、委員会の開催とともに、メールその他での情報交換を続けた。  
3名の新たな委員を追加委嘱して陣容の充実化を図った。

## 8. その他の委員会、事業活動

### 8.1 広報活動

会誌での研究部会活動の紹介 (OUG, SIG) 、メールマガジンの発行など継続的に進めた。  
さらには、ホームページからの入会および会誌、書籍注文につき、継続的に改善を図った。

### 8.2 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。

#### (1) 委員会の開催 (年6回)

普及研修事業や見学会などの企画、実施結果などについて、活発な意見交換を行った。

#### (2) 普及研修事業

##### (2)-1 講習会 2件

##### ① 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー (1日コース)

・2010年8月28日(土)、大阪産業創造館、講師:河塚幸子氏、参加者:28名

##### ② サーチャーター講座 21: 情報検索応用能力試験 2級受験対策セミナー (2日間コース)

・開催日、場所:

大阪会場:2010年9月11日(土)、12日(日)、大阪産業創造館

東京会場:2010年9月25日(土)、26日(日)、総評会館

・講師:岡紀子氏(株式会社住化技術情報センター)、江草由佳氏(国立教育政策研究所)

田中邦英氏(株式会社インダ)、三村智子氏(D I C株式会社)

・参加者:大阪36名、東京44名

##### (2)-2 見学会 1件

鳥取県立図書館、2010年12月3日(金)、参加者:7名

#### (3) 会員交流活動

##### (3)-1 じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会」との共催で、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2010年12月10日（金）、凌霜クラブ
- ・話題提供者：五丁龍志氏（TechnoProducer 株式会社）、参加者：36名
- ・テーマ：あふれる情報を整理し効率的に活かす、顧客とニーズがわかれば売れる商品ができるで！！

(3)-2 2010年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2011年3月12日（土）、大阪科学技術センター
- ・祝賀先輩サーチャーのお話：矢野純一氏（電器メーカー所属）、参加者：2級9名

(3)-3 「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。ディスカッションを中心とした研究会を3回開催。

テーマ：「新人情報担当者の意見交換の場」

「国立国会図書館における電子図書館サービスおよび電子書籍の収集に係る取り組みについて」

「キャリアアップを考える！今後・将来自分は何をしたいのか？ ライフスタイルを考えてみよう」

### 8.3 パテントドキュメンテーション委員会

下記の事項につき、実施、企画、検討を行った。

(1) 特許調査に関する人材育成研修

- ・「特許調査に必要な知識」シリーズセミナーの実施（計6回）

(2) 特許調査に関する刊行物

- ・会誌：8月号の「特許情報の分析・活用」について会誌編集委員会と共同で企画し、刊行した。
- ・書籍：特許調査の実務者向け書籍の発行を企画した。

(3) その他

- ・会誌編集委員会、研修委員会等の各部会と連携した。

### 8.4 表彰者選考委員会

第35回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 長縄友子氏
- ・教育・訓練功労賞 松谷貴己氏
- ・研究発表賞 林 和弘氏
- ・協会事業功労賞 平井邦造氏、山崎久道氏
- ・名誉会員推挙 立花 肇氏

## 9. 部会関連事業

### 9.1 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、

以下の分科会報告を参照されたい。また、INFOPRO2010 において OUG の PR 活動の一環としてポスター展示を実施した。

(1) 化学分科会 (主査：鈴木理加氏)

7 回開催

① 例会開催報告

4 月：ベンダー訪問 (独) 科学技術振興機構

6 月：勉強会 Web 化学物質検索システムの比較、無料DB と商用DB の比較改訂

9 月：勉強会 Web 化学物質検索システムの比較、無料DB と商用DB の比較改訂

10 月：勉強会 検索演習：化学物質に関する検索手法

12 月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会

2011 年 1 月：勉強会 情報検索応用能力試験 試験問題を解く

2011 年 2 月：勉強会 情報検索応用能力試験 試験問題を解く

② 情報検索応用能力試験 試験問題 2 級前半の解答例をホームページより公開。

(2) ライフサイエンス分科会(主査：西内 史氏)

11 回開催 (第 278 回～288 回) (8 月：休会)

① 講演会：5 回

・ 4 月：明日の新薬 Web の紹介

・ 6 月：SELIMIC Web についての紹介

・ 7 月：STN ライフサイエンス系ファイルの強化

・ 10 月：データベースと電子ジャーナルの著作権

2011 年

・ 1 月：ProQuest Dialog 紹介

・ 3 月：中止 (医中誌 WEB ver. 5 について)

② 検索演習：2 回

・ 9 月 検索演習

a 用法用量の変更に伴い、新剤型品が発売された例があるかどうか調査する。

(国内、2000 年以降)

b 口蹄疫を薬剤 (除ワクチン) で治療する文献。

c スルファピリジン (SP) の炎症性腸疾患への抗炎症効果

・ 2011 年 2 月 検索演習

a 小児の SLE のガイドラインについて (国内と海外)

b オピオイド \* 疼痛 \* 製剤間比較

c 2010 年度情報検索応用能力試験 2 級

d 2010 年度情報検索応用能力試験 1 級

③ 情報交換：2 回

・ 5 月 無料サイトについて



最近のPubMedの使い方などを中心に無料サイトに関する情報を共有する。

- ・11月 分類を考える 分類の話、分類に関する事例発表。

④ 見学会：1回

- ・12月 東京大学 医学図書館、薬学図書館、総合図書館見学

(3) インターネット／ビジネス分科会（主査：渡邊 晃氏）

9回開催

(3)-1 ウェブ情報の調査ツールに関する研究

①検索エンジンの機能について

- ・各種エンジンの特徴比較（4月）
- ・Googleの提供サービスと調査の効率化との関連性（6月）
- ・同上機能の特色とクラウドコンピューティングの試行（7、9月）

②ウェブ情報の検索補助ツール（ウェブ・シソーラスと類似機能）について（11月）

③ウェブ情報分析システム(WISDOM)について

- ・ビジネス情報調査への適用性（10月）
- ・システムの機能を構成する要素技術（11月）
- ・WISDOMを利用したカーボンアロイの市場規模情報調査（11月）
- ・自然言語処理の定義と応用例（12月）
- ・情報抽出技術の原理、機能および応用事例（1月）

④ウェブ公開されている「役立ちツール」類について（2月）

(3)-2 紹介・交換した情報例（4、7、9、10、1、2月）

①情報加工具：Windows操作の自動化ソフトウェア、ウェブ画面キャプチャソフト、テキストエディタ、フォルダ内ファイルの名称リスト作成法、デスクトップガジェット

②ウェブ情報源：レファレンスクラブ、コトバンク、情報付地図サイト、言葉・方言変換サイト、インターネット・ウェブビジネス歴史年表、えきねっと、Japio YEARBOOK、辞書類11点（一般、経営、ビジネス系等の分野）

③エンジン関係：Exalead、検索エンジンの一覧、Google Apps 無料版の使い方

④その他：ブラウザ診断、Windows OS 製品サポート期限、Windows live SkyDrive、Office Web Apps ほか

(4) 特許分科会（主査：百瀬研一氏）

11回開催、（原則として毎月第2金曜日）

- ・2010年4月：平成22年度の活動方針と全体討論会
- ・5月：講演とディスカッション：特許調査における言葉の魔力
- ・6月：韓国特許の検索演習
- ・7月：「PatBase」の説明会
- ・8月：休会
- ・9月：検索演習「照明用白色LED特許動向調査（検索/統計での見せ方）」

- ・ 10月：合宿（横浜ゴム湘南セミナーハウス）  
           検索演習「日本特許 3682449 の請求項 1 に対する特許無効化資料調査」
- ・ 11月：パテントマップ作成演習
- ・ 12月：中国・台湾の各種データベースの機能の比較・検証（1）
- ・ 2011年1月：中国・台湾の各種データベースの機能の比較・検証（2）
- ・ 2月：講演：中国特許調査における留意点およびおすすめの方法
- ・ 3月：講演：DOCDB について

## 9.2 専門部会（SIG）

特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として、以下の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動した。

### (1) 技術ジャーナル部会[会員企業：13社(コアパーソン：持ち回り)]（年5回開催）

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

- 第1回 1. 技報をよりよくするための施策について  
           2. 執筆に対するモチベーションの上げ方
- 第2回 英文技報の編集・発行について
- 第3回 和文技報の構成について
- 第4回 技報の発行目的と現在の姿
- 第5回 1. 特集テーマと事業戦略の関連性  
           2. 技報活用方法のあれこれ

### (2) パテントドクメンテーション部会 会員 8名(コアパーソン：桐山 勉氏) (毎月開催)

- ① INFOPRO2010 シンポジウムにて、初めて同時期に2件発表した。
  - ・【A22】特許評価・分析ツールの事例研究—Biz Cruncher を使用した事例研究
  - ・【A31】特許情報調査の教育方法の研究—指南車プログラムの応用  
 (8年間連続して部会活動の成果を報告、継続記録樹立)
- ② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を継続公開した。また、INFOPRO2010 にパネル展示した。
- ③ 大阪工業大学の SNS にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
- ④ World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。
- ⑤ 特別研修会を2010年10月に行った。  
           その際に、INFOPRO2010 の発表（前述）の2件に向けて、最後の検討を行った。
- ⑥ 外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣

特許検索競技大会 2010 の実行委員会（1名派遣、2009年に引き続き継続派遣）

⑦ メンバー間のトピックス情報交換

IPI-ConfEX2010、米国 PIUG2010、EPOPIC2010 などの関連情報。

その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑧ プロバイダーデモ勉強会の実施

トヨタケーラム社の研究室にて指南車の応用研究（A31 発表の研究のため）

(3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 会員：18名（コアパーソン：山崎久道氏）（毎月開催）

インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、研究している。メンバーは、研究者（検索、図書館などの実務経験者が多い）、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、システム関係者、などである。8月を除く毎月1度の割で例会を開いて、凝縮された討論を行い、議事録を作成して結果を共有している。2010年度は、以下の内容で行った。

① 当分野の海外の学術雑誌掲載の論文の部会員による輪読。

② 図書館における分類や情報流通に関する部会員やゲストによるいくつかの研究成果について発表・討論をおこなった。

③ UDCの最近の動きや日本語版の編集に関わる問題について報告・議論が行われた。

(4) Web サイト研究会 会員：10名（コアパーソン 橋田昌明氏）（毎月開催）

2010年度は原則として月一回の会合を開き、おおむね以下のような活動を行った。

① XAMPP を利用した「データベース作成基礎講座」の共催

・Web データベースを作成するために必要な Apache 以下の主要ソフト (Apache、MySQL、PHP、Perl など) をパッケージ化したオープンソースソフトウェア XAMPP を使って、研修委員会と共催で当研究会の二人を講師とした MySQL によるデータベース作成基礎講座を開催した。

講習会を担当するに当たっては、かなりの時間を割いて準備したため、会員については以下のような成果を得ることができた。

- ・ XAMPP の使い方・設定方法等などについての深い理解
- ・ MySQL データベースの具体的な設計手順の習得
- ・ SQL 文作成の具体例の学習

なお、本講習会は会員のほか非会員の参加も目立ち、合わせて 80 名と言う多数の方が参加された。このことから、現状では、手持ちの電子データをデータベース化するなど組織化して有効に使いたい、それを自分達の力で具体化する方法についての情報があまりない。情報関係者の間には、このような情報組織化・データベース化についてのニーズが多くあるように考えられる。

② アンケートソフト Limesurvey について

・前年度に続いて研究してきた php で書かれたアンケート作成・集計・解析用ソフト「Limesurvey」については、インストールに引き続き、簡単なサンプルデータベースの作

成を行った。年度内には全てを完了するには至っていないが、現在では、仕組み・作成方法などについては、ほぼ理解できる状況になっている。

なお、オープンソースのアンケートソフトについては、別に「phpESP」も研究対象としているので、今後、このソフトについての研究も進めて行きたい。

- ③ その他、メンバーが日常的な場面で遭遇した諸問題(PCトラブル、文字化け、WindowsとLinuxのデュアルブート環境の構築、具体的なデータベースの設計等々)について、相互に意見を出し合って解決をはかった。これによってPCやOSの基本、あるいはデータベースの設計などに関してより幅広い知識を得ることが出来た。
- また、Perlなどを使ったテキスト処理についても理解を深めることが出来た。

- (5) ターミノロジー部会 会員：10名(コアパーソン：太田泰弘氏) (隔月開催)
- 設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催し、2010年度は5回実施した。
- ・第37回(5月14日) 中国における専門用語策定作業の諸問題  
(講師：諏訪秀策、太田泰弘)
  - ・第38回(7月23日) 評価文化(講師：仲本秀四郎)
  - ・第39回(9月17日) 現在の東アジア専門用語情勢とSIGの課題(自由討議)
  - ・第40回(12月3日) 「専門日本語教育学会」の活動：その足跡をふりかえって  
(講師：仁科喜久子)
  - ・第41回(2月4日) 多言語の世界：ユネスコでの体験(講師：松村多美子)
  - ・6回目(第42回)は3月25日に開催する予定であったが、震災により延期。

## 10. 関連団体との交流

### (1) 会員として加入

- ・(財)機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・(独)科学技術振興機構 賛助会員(継続)
- ・東京商工会議所 賛助会員(継続)

### (2) 他団体との共催

例年どおり情報プロフェッショナルシンポジウムを(独)科学技術振興機構との共催で実施した。(2010年11月18日～19日。日本科学未来館)

### (3) 他団体より後援を受けたもの

INFOPRO2010に対し、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報処理開発協会、日本図書館協会から後援を受けた。

### (4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成22年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会)
- ・特許検索競技大会2010((独)工業所有権情報・研修館)
- ・TP&Dフォーラム2010(TP&Dフォーラム実行委員会)

- ・関西地区 2010 年度研究会 (アートドキュメンテーション学会)
- ・情報活動研究会 など